

製品名: Trk B ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19286**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	145kDa

抗原情報

遺伝子名	NTRK2
別名	NTRK2; TRKB; BDNF/NT-3 growth factors receptor; GP145-TrkB; Trk-B; Neurotrophic tyrosine kinase receptor type 2; TrkB tyrosine kinase; Tropomyosin-related kinase B
遺伝子 ID	4915.0
SwissProt ID	Q16620
免疫原	抗血清はヒト TrkB 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 671-720

背景

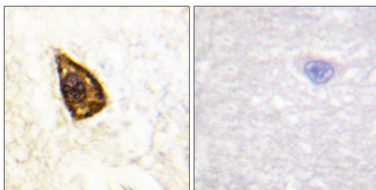
この遺伝子は、神経栄養性チロシン受容体キナーゼ (NTRK) ファミリーのメンバーをコードしています。このキナーゼは膜結合型受

容体であり、神経栄養因子が結合すると、自身および MAPK 経路のメンバーをリン酸化します。このキナーゼを介したシグナル伝達は細胞分化につながります。この遺伝子の変異は、肥満や気分障害と関連付けられています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2014年5月], 代替産物: 追加のアイソフォームが存在するようです, 触媒活性: $ATP + a$ [タンパク質]-L-チロシン = $ADP + a$ [タンパク質]-L-チロシンリン酸, 機能: 脳由来神経栄養因子 (BDNF)、神経栄養因子3、および神経栄養因子4/5の受容体ですが、神経成長因子 (NGF) の受容体ではありません。神経系の発達および/または維持に関与しています。これはチロシンタンパク質キナーゼ受容体です。TRK 受容体の既知の基質は、SHC1、PI-3 キナーゼ、および PLC- γ -1 です。、PTM: リガンドを介した自己リン酸化。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンタンパク質キナーゼファミリー。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンタンパク質キナーゼファミリー。インスリン受容体サブファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、類似性: 2つのIg様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを含みます。、類似性: 2つのLRR(ロイシンリッチ)リピートを含みます。、サブユニット: 単量体(低親和性)と二量体(高親和性)構造の間で動的平衡を保っています。SH2B2に結合します。SQSTM1およびKIDINS220と相互作用する。、組織特異性: アイソフォーム TrkB は、主に神経組織に広く発現している。中枢神経系では、大脳皮質、海馬、視床、脈絡叢、小脳顆粒層、脳幹、脊髄に発現が認められる。末梢神経系では、多くの頭蓋神経節、眼神経、前庭系、複数の顔面構造、顎下腺、および後根神経節に発現している。アイソフォーム TrkB-T1 は、主に脳、脾臓、腎臓、心臓など、複数の組織に発現している。アイソフォーム TrkB-T-Shc は、主に脳に発現している。、

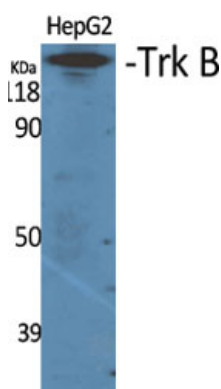
研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;神経栄養因子;

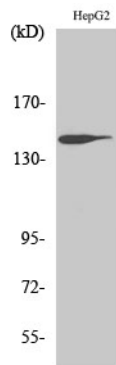
画像データ



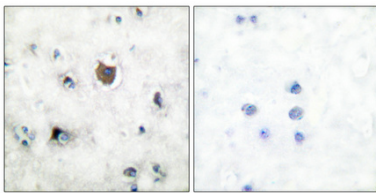
Trk B 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



1: 500 希釈の Trk B ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1: 20000 に希釈した。



Trk B ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1: 20000 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。